

第 55 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	石田ゼミ	チーム名	競馬を本気で分析してみた
タイトル	競馬で損を減らせるウマイ話		
テーマ群	a) 理論・情報 g) その他		
メンバー	田路涼香、加治屋海翔、芳川翔星		
研究計画内容	【研究背景】 近年、競馬はより身近になっている。競馬をもとにしたアプリゲーム、アニメ、最近ではドラマも話題になっている。それに伴い、競馬をする人、競馬場での売り上げは増えている。競馬はもとよりギャンブルは、全員が得をすることはない。しかし損を減らすことはできる。だがその方法を知っていても夢を見る人間の方が多い。不確実性下における人間の行動にはバイアスがかかってしまう。そのバイアスをどう切り抜けるか。テーマを競馬に絞り、研究を行った。 【研究内容】 私たちは競馬のオッズ(倍率)にバイアス(判断の偏り)があることを知った。そのバイアスは穴馬バイアスと呼ばれ、強いとされる馬が評価されず、統計的にみるとあまり走らないとされない馬が人気になるという事象である。芦谷(2014)を参考に約 10 年の重賞レースのオッズ、勝率からバイアスを見つけ分析を行った。芦谷(2014)では 2 年分の全レースであったが、私たちの研究では 10 年分の重賞レースで比較を行った。 【期待される効果】 今回の研究で期待される効果は統計をとることで、自分が競馬をするときにどの馬に賭けるべきかを理解できることである。またリスク選好のこととも関りが深く、今回の研究は競馬以外の事柄にも当てはまる。過剰なリスクを避け、正しく賭けることができる効果を見込んでいる。また 10 年分の重賞レースでの比較を行ったため、芦谷(2014)にはなかった、より多くの人が賭けるレースでのバイアスを見つけることができる。 【参考文献】 芦谷政浩「穴馬への過剰な選好 (longshot bias) 」に関するサーベイ (国民経済雑誌, 2014 年, 202 巻 2 号, p. 13-28, https://da.lib.kobe-u.ac.jp/da/kernel/81006950/81006950.pdf) “馬券のルール” . JRA. https://www.jra.go.jp/kouza/baken/index.html		